

シニア・エイジの糖尿病患者さん

「低血糖」にご注意ください

監修

東京慈恵会医科大学葛飾医療センター
糖尿病・代謝・内分泌内科 診療部長

横田 太持 先生

- 年をとるとともに、低血糖を起こしやすくなり、また低血糖が起きても気付きにくくなるので、注意しましょう。

低血糖を起こしやすい

腎臓や肝臓のおとろえで薬の効果が強くなる。食事をきちんととれない。



低血糖に気付きにくい

低血糖でよくみられる「汗」「動悸」「手のふるえ」などがあらわれにくい。

- 下のような症状がみられたときも、低血糖になっていることがあります。症状を感じたら、すぐに対処しましょう。



低血糖の症状を感じたときは

すぐに、ブドウ糖やこれらを含む飲料をとります(服用している薬によっては砂糖でもよい)。ふだんから低血糖の対処方法を主治医によく聞いておきましょう。

3

食事に注意したり、ご家族に協力してもらって、 低血糖を防ぎ、またひどくならないようにしましょう。



ご家族の方に、低血糖の症状と
対処方法について、知ってもらい
ましょう。



炭水化物を食べられないときは、
果汁やくだものをとるように
しましょう。



いつもと違う症状があったら、すぐに
血糖を測ってみましょう。血糖が
測れないときは、ブドウ糖を
とって様子をみましょう。

認知症と低血糖の関係

認知症や、もの忘れ(認知機能障害)がある人は、意識がなくなるような重い低血糖をおこす危険性が高いことがわかっています。これは、低血糖の症状に気付きにくく、また低血糖に対処をすることが遅れてしまうためと考えられます。また重い低血糖を繰り返すと、認知症になりやすいこともわかっています。

認知症やもの忘れのある方は、重い低血糖にならないよう、
とくに注意しましょう。

また、認知症にならないためにも、日ごろから低血糖に注意し、
早めに対処できるようにしましょう。



作成

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086 神戸市中央区磯上通7丁目1番5号

EA-INS-HP038(R0)
2016年3月作成